

玉野市の先生これだけは！

不登校対応のポイント！

～楽しいを実感できる学校づくり・集団づくりと学校復帰への働きかけ～

1 魅力ある学校づくりを教師の協働で創る心を胸に！

児童生徒が「明日も登校したい」と思えるような「あたたかい、明るい雰囲気」に包まれた学校づくりのための具体的な方策を教師全員の協働で築いていきましょう。そういう教師集団は児童生徒から見ても魅力的です。「明日も元気においで！」の笑顔を！

2 早期からの系統的な集団づくり・人間関係づくりに取り組む！

教師による集団づくりは、教育活動全体の中で行われます。望ましい集団づくりの観点による日々の授業実践も心がけるとともに、学級の係当番活動や班活動の充実、学級ルールの徹底を図りながら、学校行事や学年行事をうまくリンクさせて、集団づくり・人間関係づくりに取り組みましょう。

3 教育相談や生活アンケート、各種調査や過去の欠席歴等により、個々の児童生徒の傾向を分析しましょう！

教育相談や生活アンケート、各種調査等により、児童生徒一人一人の心のサインを察知するアンテナの感度を上げるとともに、過去の欠席歴等により、不登校になる傾向があるかどうかの分析も行って、早め早めの対応を心がけましょう。

4 欠席した児童生徒には、「登校できてうれしい！」を実感させる！

病気等で休んだ全ての児童生徒に対して、「会えてうれしいよ！」「みんな待ってたよ！」を絶えず伝え、学校でみんなと過ごすことは大切だという意識を持ち続けるように配慮しましょう。

5 欠席したら連絡、3日休んだら家庭訪問を！

欠席した児童生徒には、必ず連絡し、連絡事項だけでなく、「早く登校してほしい」という担任の気持ちを強く伝えることが重要です。欠席が3日続いたら家庭訪問し、本人の状況を確認するとともに、「心配してるよ、早く一緒に勉強したいな」という担任の気持ちをしっかり伝えましょう。

6 欠席が続くようなら、積極的な登校刺激をしましょう！

欠席が続く場合は、その原因を積極的に探り、心に寄り添いながら「学校に来てほしい、原因があるなら先生が全力で解決するから」というメッセージを送り続けましょう。保護者と連携するためにもしっかり気持ちを伝えていきましょう。登校刺激が本人を追い込んだり、家庭での状況が悪くなっていった場合は、次の段階に移ることとなります。

7 不登校となった場合は、計画的な支援に取り組めます。

登校が難しくなった場合は、校内で話し合い、校内での支援体制を構築するとともに、外部の関係機関との連携を持ち、様々な角度から取り組める支援を計画しましょう。校内で別室登校対応、放課後登校による学習等、可能な取り組みを洗い出します。また、担任等による家庭訪問では、連絡事項の伝達だけでなく、できるだけ該当児童生徒が「学校とずっと繋がっている」という思いを持ち続けることができるよう、届けるプリント類等は整理して持参するなど様々な配慮を行いましょう。

8 教育サポートセンター・適応指導教室、関係機関等へ繋ぐ！

不登校児童生徒への支援として、関係機関との連携や教育サポートセンターのカウンセリングの活用等が必要となります。また、適応指導教室への通室が可能なようなら、積極的に働きかけを行うようにしましょう。適応指導教室への通室が始まったら、任せきりになるのではなく、担任は適応指導教室を訪問したり、家庭訪問を継続し、「繋がり」を絶やさないように考慮します。

9 学級経営の充実に努め、絶えず受け入れ体制を整えておきます。

突然登校しても、周囲の児童生徒が適切に対応できるよう、日頃から不登校児童生徒の学級でのフォローやあたたかく迎える雰囲気づくり、座席の配慮等に取り組んでおきましょう。

10 中学校区の校・園で不登校を生まないための連携を！

不登校になる児童生徒の多くが、発達段階の中で長期欠席傾向を経験したり、様々な不登校可能性要因を持つことがあります。早期からむやみに欠席しない意識を家庭に働きかけたり、情報連携による支援の継続等に取り組んでいきましょう。